

JANNET 障害分野 NGO 連絡会

メールマガジン 第 259 号 5 月号 2025 年 5 月 30 日発行



—目 次—

トピックス

～第 25 回「リハ協力フェ」登壇報告～

1. 障害当事者が医学部で(障害について) 教える、ということ
京都大学医学研究科 医学コミュニケーション学
岩隈 美穂
2. 協力隊まつりに参加して
成城学園高校 2 年生
大木 結衣

インフォメーション

1. 国連障害者の権利条約（UNCRPD）締約国情報
2. 第 24 期生成果発表会
(ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業)

イベント情報

1. 第 27 回「リハ協力フェ」

2025 年 7 月 31 日 (木)

トピックス

～第 25 回「リハ協カフェ」登壇報告～

1. 障害当事者が医学部で(障害について)教える、ということ

京都大学医学研究科 医学コミュニケーション学
岩隈 美穂



岩隈 美穂氏 (当日のご登壇の様子)

※去る 2025 年 3 月 11 日に開催した、
(公財) 日本障害者リハビリテーション協会主
催『第 25 回「リハ協カフェ」』にてご登壇いただい
た内容を、まとめていただきました。

3 月 11 日に行われた、リハ協カフェでの発表内容の概要を報告します。簡単な自己紹介の後、現在の教室の様子やこれまで卒業生たちが行ってきた研究、(ヘルス) コミュニケーションをミクロ・メゾ・マクロの視点で紹介しました。次に「障害について」教えている授業は、現在は学部 1 年生向けの ILAS のみであることをお話ししました。実は着任当初は、もっと授業で障害(学)について、話していましたが、授業で障害について話し始めると、クラスの雰囲気明らかに変わり、学生たちが緊張・硬直し、正しいと感じ、考え、言わなくてははいけないという圧を感じているように見えたので現在はやり方を変えています。障がい当事者が、教員という立場で、障害(者・学)について教える・語るという行為は、私が思っていた以上に「薬が効きすぎる」ようでした。

現在は、「混ぜご飯」スタイルで、障害(者)の話を、ほかのテーマに混ぜて話しています。これは障害に関心・興味がない人にも聞いてもらったり、障害(者)とほかのグループが独立しているのではなく、むしろテーマが地続きである点を(さりげなく)話したりすることを目的としています。

炊き込みご飯 スタイル

- ・ 障害をほかのテーマに混ぜて話す
- ・ 障害に関心・興味がない人にも聞いてもらうため
- ・ 障害(者)とほかのグループやテーマが地続きである点を(さりげなく)話す



次に大学院生を対象に、「Let's 共生」というゲーミフィケーションの授業での学びについて授業評価アンケート結果をテキストマイニングで要約し可視化しました。このゲームは CBR マトリクスをもとにリハ協が作成し、ツイントラックアプローチも重要な概念として紹介されています。使用されるニーズカードには、LGBTQ+や外国人といった様々なニーズをもった人たちの中に、障がい者が含まれています。



当日の PowerPoint より

最後に今後について、メゾレベルでは、最近市内の小学校で講演活動を行うようになりました。大学で授業をするように話すと 10 分で飽きられてしまうので、学校と事前に打ち合わせをして、生徒たちが遊んでいる中、校庭に車を乗り入れさせてもらって、車からどうやって車いすを下ろしてトランスファーするのか、というところから見せています。

次にミクロレベルの活動では、メディア出演があります。障がい者が福祉番組だけでなく、例えばお堅い経済番組に白状をついて現れるとか、軍事の解説に車いす使用者が呼ばれる、といった「場違いな障がい者」が出てきて障害について一切触れないような番組作りがもっとされたいと思っています。何らかの専門家がたまたま障害を持っていたという「不意打ち」という戦略です。こんな場面で障がい者がいる、という「場違い」にたくさんの障がい者が越境していくことが必要だと考えています。

最後にまとめとして、障害当事者が医学部で（障害について）教える、ということは、思っていたよりも難しかったこと、そして今は「まぜご飯」のようにほかの話題に障害をまぜて話すようにしていること、最後に「場違いな障がい者」という戦略について触れて講演を終わりました。今回の講演が何かの参考になれば幸いです。

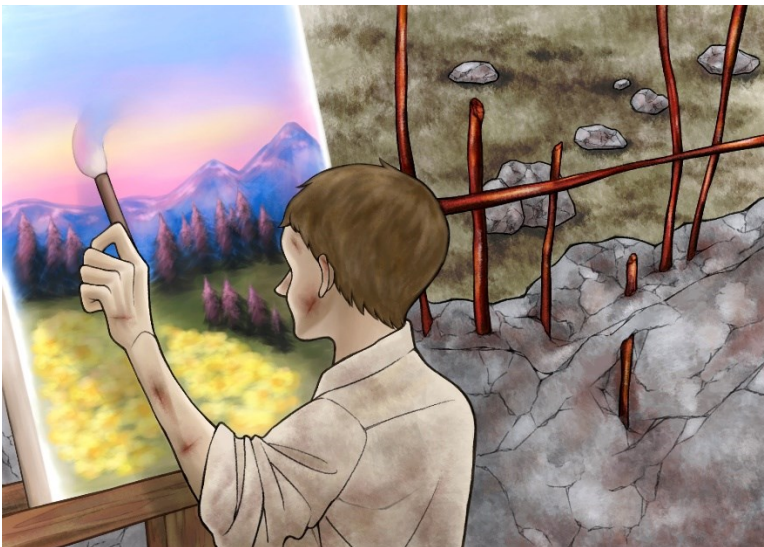
2. 協力隊まつりに参加して

成城学園高校2年生
大木 結衣

4月19日・20日の2日間、国際協力機構（JICA）市ヶ谷ビルにて「協力隊まつり2025」が開催されました。このイベントは、JICA 海外協力隊の活動を広く紹介しながら、国際交流・国際協力・多文化共生・SDGsといったテーマについて楽しく学べる貴重な機会です。当日は、JICA 海外協力隊の各OB・OG会によるブース展示やワークショップ、講演会などが行われ、多くの来場者でにぎわっていました。



後ろ右端が筆者。



SDGs「誰ひとり取り残さない」小論文・イラストコンテスト
＜イラスト部門＞大賞作品

「思い続ける美しい記憶」簡単に奪われていったもの
(宮本 薫子 順天堂大学3年生)

私は今回、ボランティアとしてこのイベントに参加しました。担当したのは、野毛坂グローバルが主催する「誰ひとり取り残さない」をテーマにしたSDGsコンテストの紹介ブースです。このコンテストでは、高校生や大学生が文章やイラストを通じて、自分なりにSDGsの理念を表現します。特に、「誰ひとり取り残さない」という言葉が、自分の身近な課題として感じられるようになるきっかけを与えてくれる内容でした。

ブースでは、来場者の方々にSDGsに関するアンケートへのご協力もお願いしました。アンケートをきっかけに、多くの方と直接お話しすることができ、とても刺激的な時間となりました。

さらに、来場者だけでなく、他のブースに出展されていた方々との交流も印象に残っています。たとえば、発展途上国で医療活動を行う女性、安全な水を届けるために井戸や水道を整備する男性、車の修理を通じて地域の暮らしを支えている方など、さまざまな分野で国際協力に関わる方々とお話することができました。

分野や立場は異なっても、「世界をより良くしたい」という思いで皆がつながっていることに強く感動しました。そして、今回の体験を通じて、「国際協力は特別な人だけがするものではなく、私たち一人ひとりにもできることがある」と実感しました。

協力隊まつりは、世界の課題と向き合い、行動する人々の姿に直接ふれられる貴重な場です。そこで出会った言葉や笑顔の一つひとつが、私にとって未来を考えるヒントになりました。来年もまたこの場が、多くの人にとって新しい気づきや出会いの場になることを願っています。そして、ほんの少しでもいいから、自分にも何かできるかもしれない。そう思えるきっかけとして、協力隊まつりを多くの人に体験してほしいと思います。



野毛坂グローバルが実施したセミナーの様子

インフォメーション

1. 国連障害者の権利条約（UNCRPD）締約国情報

（関連サイト：<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/rights/right.html>）

署名国・地域数 **164**/ 締約国・地域数 **192**（2025 年 5 月末現在）

https://treaties.un.org/Pages/ViewDetails.aspx?src=IND&mtsg_no=IV-15&chapter=4&lang=en

2. 第 24 期生成果発表会

（ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業）

第 24 期生 4 名が日本での学びと帰国後の目標について発表します。「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」は、2024 年 9 月に第 24 期生 4 名を日本に迎えました。希望に胸を膨らませて来日した 4 名は、日本で何を学び、何を感じたのでしょうか。

各研修生は日本での研修を振り返り、帰国後の目標や夢を語ります。4 名の発表をどうぞお楽しみください。

みなさまのお申込みをお待ちしております。

■開催日時：2025 年 6 月 14 日（土）13 時～15 時

■会場：戸山サンライズ 2 階 大研修室（東京都新宿区戸山 1-22-1）

■定員：80 名

■参加費：500 円（介助者無料）※当日、会場にて現金でお支払いください。

■申し込み方法：下記のリンクからお申込みください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfJqt7YjxZ1qSwFB_zqIFh9464R8KDFUjLty0xxR5QsAd9iig/viewform?usp=header

【プログラム】 ※当日の流れ等によって変更する場合があります。

13:00-13:10 開会の挨拶など

13:10-13:50 第24期生の成果発表会 *各発表の後、質疑応答の時間を設けます。

(前半)

・タスリマ・スルタナ・ミトゥ
(バングラデシュ・写真右下)

・カー・ウェイ・トゥワン
(台湾・写真右上)

13:50-14:05 休憩

14:05-14:45

(後半)

・ラクシミ・クンワル
(ネパール・写真左下)

・ビャンバスレン・ブンチン
(モンゴル・写真左上)

14:45-15:00 閉会の挨拶など

■使用言語：日本語・日本手話

■情報保障：日本手話通訳・要約筆記



【事務局】

ご不明な点等ございましたら、以下の連絡先までお気軽にお問合せください。

日本障害者リハビリテーション協会 事業振興部人材開発課

〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-22-1

TEL : 03-5273-0633

FAX : 03-5273-1523

Email : inquiry@dinf.ne.jp

本事業ウェブサイト : <https://duskin-hp.normanet.ne.jp/>

イベント情報

1. 第 27 回「リハ協カフェ」

2025 年 7 月 31 日（木）

日本障害者リハビリテーション協会の国際委員会では、国際協力分野において障害分野の課題に取り組んでいくため、情報発信を継続し、関係者への情報提供を行うべく、2020 年 8 月よりリモートによる報告会「リハ協カフェ」を隔月で開催してまいりました。今回は第 27 回目の開催です。

第 27 回は、春名 由一郎氏（独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター 前副統括研究員）より「職業リハビリテーションを学んで～黄金期はこれから」について、また山田 雅穂氏（ダイバーシティ政策研究所所長/株式会社アデランス独立社外取締役）より「Disability-inclusive な雇用と CSR とは－障害当事者の視点を活かして」についてご報告いただきます。

関係者以外にも広くご参加を募ります。皆様のご参加をお待ちしております。

- ◆日時：2025 年 7 月 31 日（木）13：30～15：15
- ◆会場：リモート開催（Zoom） ※要約筆記が入ります。
- ◆主催：公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会
- ◆共催：障害分野 NGO 連絡会（JANNET）
- ◆参加費：無料
- ◆定員：100 名

プログラム（敬称略）

13：30-13：35 開会挨拶

公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会

13：35-14：15 報告 1

「職業リハビリテーションを学んで～黄金期はこれから」

発表者：春名 由一郎氏（独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター 前副統括研究員）

14：15-14：25 質疑応答

14：25-15：05 報告 2

「Disability-inclusive な雇用と CSR とは－障害当事者の視点を活かして」

発表者：山田 雅穂氏（ダイバーシティ政策研究所所長/
株式会社アデランス独立社外取締役）

15 : 05-15 : 15 質疑応答

15 : 15 閉会

* プログラムの内容に変更がある場合がございます。ご了承ください。

【発表者プロフィール】

・春名 由一郎 氏

(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター
前副統括研究員)



東京大学医学部保健学科卒業。東京大学大学院医学系研究科修了。博士（保健学）。

1994 年から 2025 年まで、障害者職業総合センターにて研究員・副統括研究員として研究と講義・講演等に従事するとともに、厚生科学審議会難病対策委員会専門委員も長年務める。保健学および国際生活機能分類（ICF）を基盤に、難病を含む障害のある方々の就労支援・治療と仕事の両立支援、地域の就労支援人材の育成、欧米を中心とした障害者雇用政策の国際比較研究など、医療・福祉と「働く」をつなぎ、現場と政策をまたぐ実践的な研究に取り組んできた。

2025 年に退職後も、「人生 100 年時代の 60 歳は“セカンドライフの 10 歳”」と位置づけ、AI や科学を学び直しながら、障害者の“働く”をめぐる次世代の支援づくりに挑戦中。

・ **山田 雅穂** 氏（ダイバーシティ政策研究所所長/株式会社アデランス独立社外取締役）

【現職】

- ・ダイバーシティ政策研究所所長
- ・株式会社アデランス独立社外取締役
- ・中央大学総合政策学部兼任講師
- ・経営倫理士
- ・専門社会調査士

【略歴】

法政大学大学院人間社会研究科博士後期課程
人間福祉専攻修了、 博士（人間福祉）。

専門分野は障害者雇用政策、DEIB（Diversity, Equity, Inclusion and Belonging）、CSR、経営倫理、福祉政策。

障害のある当事者としての視点を活かしながら、障害のある人を含めた DEIB について CSR、経営倫理を含めた学際的な研究を行っている。株式会社アデランスでは、障害のある人を含めた DEIB の専門家として独立社外取締役を務めている。

【研究ホームページ】

<https://researchmap.jp/mihoyamada> （リサーチマップ）



【申込方法】

以下のサイト、または FAX にてお申し込みください。

<https://www.jsrpd.jp/cafe27/>

申込受付：2025 年 7 月 30 日（水）15：00 まで

※情報保障が必要な方は、7 月 22 日（火）までにお申し込みください。

定員になり次第、締め切りとなりますので、ご了承ください。

お名前、ご所属、ご住所を明記の上、手話通訳、要約筆記、テキストデータなど必要があれば
申し込み時にお知らせください。

参加登録された方へ Zoom の URL をお送りいたします。

【お申し込み、お問い合わせ先】

《公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会 国際課》

担当：村上・仁尾（にお）

〒162-0052 東京都新宿区戸山 1 丁目 22 番 1 号

TEL: 03-5273-0601 FAX: 03-5273-1523

E メール：kokusai@dinf.ne.jp

編集後記

インターネットに多くの人がアクセスするようになったころ、オンラインでのやり取りのメインは、電子メールだったように記憶しています。

その後、チャットや SNS などコミュニケーション手段は多様化し、単なる文字情報だけではなく、画像や動画をやり取りするサービスが広がってきました。

そして仲良くなった人とはメアドを交換するよりも、Line のアカウント情報を交換するということの方が多いかもかもしれません（言い過ぎでしょうか）。

最近個人アカウントのメールボックスをチェックすると、金融機関やカード会社、ネット通販サイトを語る迷惑メールで溢れ、受信即削除！ というのが無意識の行動になっているのではないのでしょうか。

そんな中、このメールを削除せず、ここまで読み進めてくださった皆さん、本当にありがとうございます！ 次号以降も変わらぬお付き合いを、どうぞよろしくお願いいたします（ペコリ）！

（伊藤 丈人／JANNET 広報・啓発委員）

JANNET 事務局では、会員の皆様よりメールマガジンに掲載する国際活動に関する情報を募集しております。団体会員様のイベント情報などありましたら事務局までご連絡ください。

JANNET 障害分野 **NGO** 連絡会

〒162-0052 東京都新宿区戸山 1-22-1 公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会内

【JANNET 事務局直通】 TEL : 03-5292-7628 FAX : 03-5292-7630

URL: <https://jannet-hp.normanet.ne.jp/>